



from Basel



スイス・バーゼルに所在する国際決済銀行（BIS < Bank for International Settlements >）。各国の中央銀行・金融庁幹部が世界の金融経済をあらゆる角度から議論。国際決済銀行が事務局機能を提供するバーゼル銀行監督委員会では、「バーゼルIII」をはじめとするさまざまな国際金融規制を策定。

# スイス人の奇抜な発想

スイスは物価が高いことで有名です。例えば、マクドナルドのビッグマックセットが12スイスフラン（現在の為替相場で約1,500円）、スターバックスのドリップ・コーヒー（トールサイズ）が5.5スイスフラン（約700円）です（いずれも8%の税込み価格）。同じく物価の高いことで知られている北欧の消費税が約25%であることに比べて、スイスの消費税8%はかなり低い水準ですから、税抜きでみるとスイスの物価の高さは群を抜いています。

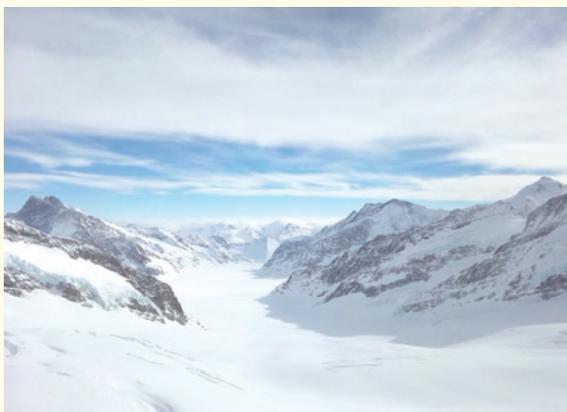
そんなスイスで昨年、少々驚きの国民投票が行われました。時給22スイスフラン（約2,800円）の法定最低賃金の導入の是非を問うものです。週42時間のフルタイム労働で、月給に換算すると4,000スイスフラン（約52万円）になります。報道によると、スイスには最低賃金を定める制度はないものの、働き手の約90%はすでに月50万円超の収入を得ているそうです。国民投票は否決されましたが、提案された賃金水

準自体は、当地ではそれほど非現実的なものではないと受け止められています。とはいえ、日本人である筆者の感覚とは大きく異なります。

スイスは物価が高いにもかかわらず、多くの観光客が訪れます。風光明媚なスイスアルプスにて、夏はハイキング、冬はスキーが盛んです。国内の幹線道路や鉄道が整備されているので、バーゼルからもアクセスが良いです。日本では到底考えられないのですが、標高3,454メートルのユングフラウヨッホまで鉄道で運んでくれますから、バーゼルから4時間程度で写真の氷河を目前に見ることができます。鉄道が電化されて間もない頃の1895年に国家プロジェクトとして着工し、1912年に開通したと聞くとスイス人の観光地づくりの先見の明に驚かされます。

（バーゼル銀行監督委員会事務局、バーゼル）

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



スイス初の世界自然遺産であるユングフラウアレッチ地域のアレッチ氷河。山の麓からトラムや鉄道を乗り継いで1時間半程度でアレッチ氷河を見ることができます。



バーゼルの街を流れるライン川。水流が速く、また船舶の往来があることから（写真の右側エリア）、基本的に遊泳禁止ですが、市の施策としてこのエリアだけ特別に遊泳可能となっています。そのため、夏には、市外からも多くの人が泳ぎにやってくるにぎわいを見せます。